

交通遺児の手記



信愛女学院3年 名川 佳江

思い出

十年ひと昔とか、二十年ひと昔とか、俗によく耳にする言葉であるが、このひと昔という長い長い年月の間には、色々な楽しい思い出や、悲しく苦しく、つらい思い出が誰にでもあることだろう。

私達一家にも、人生の上で運命を変える一番つらい、悲しいでき事が、ある日突如として起こった。それは、十七年前のでき事である。出張に行く途中で事故に会い、父があっけなくこの世を去ったのだ。皮肉にも、神様は父を助けてはく

ドライバーの意見



豊野村糸石 赤星 義人

私が免許を取得（S6年）したころは車も少く、事故も殆んどありませんでした。昭和二十六年でしたか、車、車、車の洪水で、いやになり車の運転をやめま

私の提言

「車は走る凶器」という言葉を耳にしますが、車を凶器にするのは誰れかという事です。

私は年齢を考えて、安全運転に努めていますが、車ほど従順なものはないので

れた。それから、母や祖母の苦勞は始まった。母は、父の代わりに勤めに出かけ、祖母は、まだ幼なかつた私達姉弟の面倒をみてくれた。特に母は家の主として又、母親として一人で三役も四役もして私達を育ててくれた。父が亡くなったので母は、私達に、さびしがらせまいと精一ぱいの事をしてくれられた。欲しい物は何不自由なく買ってくれたし、色々ないいことも、たくさん並み以上にさせてくれ、物質的な面でも精神的な面でも充分に満たしてくれた。母への感謝は、一口で言い表わせない。

父が亡くなった時、私はまだ一歳だったので父の顔は、はっきりと覚えてはいない。が、時々昔の父の写真を、引っぱり出して、おぼろげながらも自分の頭に残っている、かすかな小さな一本の線をたどり、十七年前にもどって、自分な

り（父は、こういう人だったんだろ。う。など、空想感に浸り父の像を描いてみたりして、父の面影を追ったこともある。十七年――父が亡くなり早や、もう、そういう年月が去って行ってしまった。今度は、私が母や祖母に恩返しする番が来たようだ。私が、今現在幸福にいられるのは、天国で見守っていてくれる父をはじめ母や祖母や皆のおかげである。今から私が生きていく上でも皆に感謝の念を忘れず、家族全員一致協力して頑張っていこうと、気持ちを新たにしている。

した。ハンドルを握らなくなって、はじめて、時代の流れと、車の役割を再確認し、あらためて二十九年四月に再度免許試験を受けました。

「車の走る凶器」という言葉を耳にしますが、車を凶器にするのは誰れかという事です。車を運転する人次第で車の功罪が評価されるのです。若いドライバーの中には、スピード狂、車窓からジュースの空缶の投棄等を平気でやっている。ドライバー

機や交通指導板セットなども、幼稚園、保育所、小学校はもちろん、老人会や母親学級等の交通安全教育にも広く活用されています。

三、交通安全運動の展開

交通安全運動といえば、交通安全協会や警察、あるいは交通指導員の人達がポスターを貼ったり、交通の指導取締りをしたり、また朝夕の街頭指導にあたることだと思っている人が案外多いようだが、その目的は、運転者、歩行者など道路を利用するすべての人達の交通安全思想を高め、正しい交通ルールの実践を習慣づけることですから、県民のすべてがそれぞれの立場でこの運動に参加するよう心掛けていただきたいものです。

県下では、市町村、事業所、各種団体などで組織している「熊本県交通安全推進連盟」を中心に、春、秋の全国交通安全運動のほか、次表のように適宜交通安全防止運動を展開しています。このような交通安全運動をすすめるに当たっては、県交通安全推進連盟、県警察、県教育委員会、県交通安全協会、県安全運転管理者協議会等が連携を保ち、ポスターやチラシ等を作成して関係機関、団体に配布するほか、機関紙を活用するとともに、報道機関や事業所等の協力を得て、積極的な広報活動を展開して運動の主旨

の末端浸透をはかっています。

交通安全運動に際しては、交通安全タッチ運動、○道路診断、○街頭活動など盛り沢山な行事を実施していますが、昨年春の交通指導員大会は、日常、地味

な奉仕活動が続いている交通指導員の士気を鼓舞するとともに、指導員の立場を県民にアピールする機会ともなり、好評を博しました。

また、各地で県事務所単位、あるいは

市町村単位に繰り広げられた交通安全推進大会など、多彩な行事は地域住民の交通安全意識の盛りあげに効果を発揮しています。

地域ぐるみの交通安全

菊池市・中原婦人会の場合

「私たち婦人会の活動で事故が未然に防げ、尊い人の生命が守れるのなら、それは大変にすばらしいことです」。菊池市中原婦人会の会員は語る。

菊池市の東部、市役所から東に約三キロ、旭志村と隣接した所に菊池市下河原中原がある（世帯数九十七、人口四百二十人）。

連盟（沢田一精会長）から、多年に亘り交通安全活動に功績があったとして表彰された。

活動の成果として、会員の予期しない

し、通りすぎます。私たちもそれにあいさつを返します。運転者と子供が手をあげ、声をあげて気持ちを通わせ合います。この当り前のことが何んとも気持ちがいいんですね。私たちは忘れていた大事なものを見つけたような気がしました」と。



▲河原小登校時の街頭指導風景

昭和四十五年、この中原地区の婦人会に河原校区（児童数百四十一人）交通安全会母の会の支部（現在、佐々久子支部長ほか六十人）が発足した。当時、地区婦人の交通安全意識は低く、無関心に等しい状態にあり、そのことが区長会等の会合や子供たちから指摘されるところとなり、地区婦人会では社会人としての反省と自覚から自発的に支部発足に踏みきった。以来、今日に至るまで、春秋の交通安全全旬間もとより、新学期と毎週月曜日の朝、子供たちの登校時に地区内の二カ所で街頭指導に当たっている。

昭和五十年十月一日、県交通安全推進

思わぬ収穫があった。会員は語る「それは交通安全活動を通して、地域の連帯意識が高まったことです。朝の登校時に街頭指導に立つと、私たちに子供が元気にあいさつを送ります、運転者も会釈を

もちろん、この活動は地区住民の交通安全意識を啓発し、自覚を呼び起したという点において、初期の目的を達成した。さらに会員は語る「主婦は家庭内にあって、夫、子供、舅、姑といったそれぞれ異なる世代との関係がとりわけ密です。したがって、家庭の主婦が中心になって活動をすれば効果は当然あがりま

月別	名 称	主 要 目 標
4 月	春の全国交通安全運動	全国統一した目標をかかげ、とくに新入学園児の交通事故防止を中心に運動の展開をはかる。
5 月	ゴールデンウィークの交通事故防止運動	行楽シーズン特有の過労、わき見運転等の事故防止と道路環境の点検整備をはかる。
7～8月	夏の交通事故防止運動	夏休み中の高校生の上二輪車事故防止、暴走運転の防止、お盆帰省等による過労運転による事故防止をはかる。
9 月	秋の全国交通安全運動	全国統一した目標をかかげ、スクールゾーン対策、正しい交通ルール実践の定着化をはかる。
11 月	行楽期の交通事故防止運動	行楽客の無理なスケジュールによる過労運転防止など運転者のモラル向上をはかる。
12～1月	年末年始の交通事故防止運動	年末年始の飲酒運転防止、道路環境の整備など交通量増加による交通事故防止をはかる。